JTCかわら版

VOL.156　平成 30 年 1 月号

目次

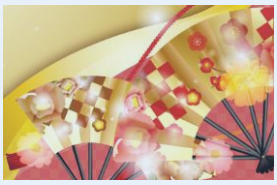
・「世に生を得るは事を為すにあり」
社内全体会議での北野の訓話より

・ＪＴＣ　Ｎｅｗｓ
新メンバーのご紹介

・その保険を選んだ理由は何ですか？

・ＴＡＸ　Ｎｅｗｓ
平成 30 年度税制改正（所得控除）

・相続をもっと自由に
『家族信託』による相続・財産承継対策のススメ



「世に生を得るは事を為すにあり」

北野　座右の銘

今回は、日本の有名作家のメールマガジンのストックの中からお話を紹介します。

アメリカのある裁判官が、自宅の塀を建てる大工を探していて、しばらくしてようやくある大工が手を上げました。「代金はこれだけしか出せないから、荒削りでいい。それでも引き受けてもらえるか」と聞くと、その大工は「いいですよ」と引き受けてくれました。

仕事ぶりを見てみると、実に丁寧で念には念を入れており、立派な塀が完成しました。裁判官は、これだとこの大工は代金を増額して請求してくるのではないかと思い、先手を打ちました。

「念を入れ過ぎたな。こんなに丁寧にしてくれとは頼まなかったけど」
「丁寧にして悪かったですか」
「悪くはないけど、こんなに丁寧にしても約束した代金しか払わないよ」
「はい、結構です」
「しかし、こんなに手間をかけて損ではないのか」
「損かもしれないけど、損だからといって仕事を粗末にすると、自分の良心が損なわれる。大工として仕事をしている以上、仕事に精魂を込め、自分が満足しないと気が済まない。そうしないと、自分の精魂まで損をする気がする」

のちに、裁判所が建設されることになり、裁判官はその大工を指名したそうです。

日本には「損して得取れ」という言葉があります。先に損をしても巡り巡ってのちに大きな得を連れて来るということは現実にある、最初から得を期待してはだめだ、というお話です。

誰かに評価されたい、褒められたい、と他人の目ばかりを気にしてはいけない。今置かれている場所で精一杯役割を果たしているか。評価されるからやる、評価されないからやらないでは、自分の成長には繋がらないような気がします、と有名作家は綴られています。

今のお話を心に留めて、仕事に励んでいただければと思います。

北野慎二

JTC News

新メンバーのご紹介

昨年 11 月 6 日に入社しました。
内勤を担当しており、事務所受付や電話応対などで皆様をお迎えします。

「１日でも早くお客様と事務所のお役に立てるよう、頑張ってまいります。よろしくお願いいたします！」

貞閑 祐紀（さだか ゆき）